

座長／早稲田大学スポーツ科学学術院／熊井 司  
／西宮回生病院整形外科／吉矢晋一

本シンポジウムのタイトルは「アーバンスポーツの医学サポート」であったが、これまでのスポーツ医学関連の学会では、あまり取り上げられることのなかったテーマである。「アーバンスポーツ」とは直訳すると都会のスポーツ、となるが、都市で開催される新しいスポーツ、として近年注目を集めている。2021年開催された東京2020大会では、アーバンスポーツと称されるスケートボード、BMX (bicycle motocross)、スポーツクライミング、3×3バスケットボールなどが新種目として加わり、次回のパリ大会ではブレイクダンスが新たに追加される予定である。そのような状況のなか、これら新しいスポーツに対する理解も深まってきているが、一方で、スポーツ医学的アプローチに関しても知識や経験を共有したり、より良い医学サポートを行うための議論を行っていく必要がある。そのための一助となるべく、本シンポジウムでは、スケートボード、BMX、スポーツクライミング、ブレイクダンスについて、それぞれの種目において現場の第一線で医学サポートを行っておられる方々をシンポジストとして、情報提供ならびにディスカッションをしていただいた。

シンポジウムでは、まずスケートボードについて、札幌医科大学の寺本篤史先生と日本大学の小山貴之先生から、競技についての説明と東京2020大会における医療サポートの実際についてお話いただいた。過去の大会におけるサポートについての情報の乏しいなかで、重大事故発生の可能性もある本競技において、傾斜地での搬送を含め、会場の特性に応じた対策が必要となることを実感させられる内容であった。八軒内科ファミリークリニックの大坪優介先生は自転車競技BMXにおける選手救護に関して、大会中に生じた外傷事例に対する救護の経験を紹介された。頭部や胸腹部外傷を含めた高エネルギー外傷が高所や傾斜地を含めたスポーツ現場で発生することが、本競技の医学サポート上、考慮すべき問題であると感じた。千葉市立青葉病院の六角智之先生は、従前より登山やスポーツクライミングに関する医学サポートに関わってきておられるが、本シンポジウムでは、スポーツクライミングにおける経験について解説された。競技特性にともなう外傷や障害があることや、近年女子アスリートで問題となっている female athlete triad などにも触れた内容であり、この競技における医学サポートについて理解を深めることができた。5人目のシンポジストの昭和大学の田村将希先生はブレイクダンスについて、競技で発生する外傷や障害に関する海外からの発表と、国内の選手に対するアンケート調査の結果を報告された。本競技において、選手への医学サポートに関する情報や経験の報告は未だ十分ではなく、今後知識や経験を蓄積していくことが重要であると思われる。各シンポジストからのご発表に引き続くディスカッションでは、それぞれの競技に関して、競技内容や会場の特性にあわせた医学サポートの実際や問題点、今後の課題について、さらに踏み込んだ議論が行われた。

今回の対象となった各種目については、今後さらに人気が高まり、競技人口が増えてくることが予想される。それにもなると、それぞれの種目の競技特性を理解したうえで、外傷や障害の予防や治療、大会での救護活動を行うメディカルスタッフの養成や確保の必要性も高まると思われるが、一方で、関連する情報や知識、経験の蓄積は未だ十分なものとは言えない状況である。当日会場には、若い年齢層中心に、このテーマに興味を持つ多くの方々が参加されていた。今回参加された方々に対し、本シンポジウムは今後の活動の指標となる有用な情報を提供できたのではないかと思います。最後に、来場いただいた皆様と、ご多忙なか貴重な情報の紹介やご教示をいただいたシンポジストの皆様、あらためて深謝の意を表する次第です。